

## ウーマンカレッジ

### ～11月の行事～

11月のウーマンカレッジでは、講演会を行いました。

終活ガイドとして活動されている、福山市在住の生関(いせき)くみさんをお迎えし、『自分らしく、楽しく生きるには』と題して、人生100年時代をどう生きていくかのお話をしてくださいました。

【楽しみ・生きがいを持つためにこれからの人生でやりたいこと】では、参加者の方から「スマホを使いこなしたい」「私の役割である野菜作りを続ける」「ボランティアを続ける」などのさまざまな声が上がりました。前向きになれるとお話を聞き、皆さんとても喜んでおられました。(s)



## しごんぼ隊

### ～多飯が辻山 登山～

しごんぼ隊は11月13日(土)に、町子連を講師に迎え栗田にある多飯が辻山へ登山に行きました。

今回しごんぼ隊初の登山に挑戦！最初に登山の注意事項を聞き登山開始です。東登山道は山頂まで約2.5km、標高差400mのほぼ直線的に登るルートで、勾配のある山道をぐんぐん登って行く子どもたち。登山道から山頂までにある7基のお地蔵さんを探したり、落ちていた栗や枝を拾いながら楽しく登っていきました。

そして何度か休憩しつつ、ついに山頂へ到着！この日は晴天で大山まで望むことができ、絶景と達成感で感無量の様子の子もたち。山頂で記念撮影をし、下山となりました。険しい山道を頑張って登り、初の登山は無事成功！心に残る素晴らしい体験ができたしごんぼ隊でした。(A)



# ふるさと今昔講座

## ～第5回講座～

ふるさと今昔講座では、11月9日10日の1泊2日で視察歴史研修を行いました。今回の目的の第1は、これまで東城では確認されていなかった奴可入道西寂のお墓を見学することと、終焉の地での平家物語の記述内容について研修すること。第2は、今治や松山にいたと考えられる長尾隼人についてのどのような状況下の中でそこにいたのかを研修することです。これまで、東城ほとんど語られてきたことのない奴可入道西寂についてと、東城に家老として入城することのことがよくわかっていない長尾隼人について、ふるさと今昔講座で研修してきました。この2人を追いかけて、今回の研修を実施しました。

1日目は、水軍についてまず基礎知識を得るために、村上水軍がどのように活躍していたのかを見学しました。越智水軍・河野水軍等の関係を研修しました。

国指定史跡の能島に上陸し、水軍の城跡について研修しました。海の水がまるで激流の川のように流れるところを船で見ながら、水軍たちがいかに巧みな航海技術を持っていたかを肌で感じることができました。

続いて河野水軍が本拠地とした松山市の湯築城（国指定史跡）を見学しました。中世の武家屋敷の様子がよくわかる遺跡で、河野水軍がどのような暮らしぶりであったのかを説明していただきました。後に福島正則が入城し、ここに長尾隼人がついてきていた可能性があります。その地の様子もあわせて確認しました。

2日目は、いよいよメインの奴可入道西寂の戦いの場と葬られているお墓に出向きました。平氏に反旗を翻した河野氏を打ち負かしたまではよかったのですが、戦いが終わった後に隙を突かれ、命を奪われてしまいました。奴可入道西寂が、高縄寺に葬られていることを、今回講師の福井俊之さん（塩原）によって地元の方から確認され、東城から初めてこの奴可入道西寂のお墓に行きました。今まで道後松山・風早の郷土史でしか知られていませんでしたので、東城からは初めての訪問者となりました。

この伊予の地域では、奴可入道西寂は、平家に味方した乱入者で悪者です。その一方で伊予地域の河野氏は、源氏についてこの地域を繁栄させた英雄として語り継がれてきています。悪者の乱入者と言われているにもかかわらず、伊予地域の方が、急な山道を登り、奴可入道西寂のお墓を丁寧に掃除し、大切にしていたことに驚きました。東城では、奴可入道西寂は過去の人として、存在したことすら語られなくなってきたことを残念に思いながら、現地ですっかりと研修することができました。とりわけ、伊予地域の風早歴史文化研究会の方から安全に登れるようにロープ等をご準備いただくなど、多くのご配慮をいただきました。具体的な説明をいただきました。具体的でとてもよくわかる良い研修ができました。

最後に福島正則の家来として、越智氏に対して、福島正則の使いとしての役目をしたと考えられる長尾隼人の姿を追いかけてきました。長尾隼人が見た瀬戸内海の様子を今治城から見ながら、今治城のすぐ近くの国分山城にいた福島正則の使者として越智氏のところへ遣わされていた史料で、初めて歴史に姿を現した長尾隼人について、どのような立場にいたのかを研修しました。また、長尾隼人（鈴鹿市史で3男山路盛郷）の弟正俊の子たちが1606年に松山城主加藤嘉明に仕えたことと記録に残っています。その長尾隼人にかかわる歴史も研修しました。

今後東城にゆかりのある史跡を訪ね、見えてくる歴史のページの中で、その時その時をどのように生きてきたのかをしっかりと研修していきたいと思いました。㊦



# 防災研修会

11月10日(水)19時から東城自治振興センター研修室において「防災マップ作り」と題し、東城自治振興区川西下自治会長小谷雅之さんを講師に、川西下自治会の防災マップ作りの取組について説明していただきました。今回は、自治会から31名の参加をいただきました。

川西下自治会では、平成18年に全国で災害が発生したのを受けて防災組織づくりに取り組み、平成21年に自主防災組織が発足し、8地区からそれぞれ防災委員が出ることとされました。その時に山口大学の先生を招いて、勉強会をされ、防災マップを作られたとのことでした。その研修で講師が言われたことは、「災害危険個所の把握」・「防災組織の役員交代による活動の衰退がないこと」・「活動計画と現地調査の必要なこと」・「要支援者世帯の調査及び支援内容の確認をする」ということで、そのことを基に取組まれてこられたとのことでした。

具体的取組として、防災マップ作りに向けて災害のアンケートをとられたり、役員等で地域を歩き、危険地域を把握されたりしたこと。また、自主防災組織を立ち上げ、防災グッズの準備をされたこと等説明いただきました。

今も、「庄原市防災マップ」を基にして、避難指示レベル3が出されたときにすぐに役員が集まり、民生委員さんと連携し、要支援者に個別に避難するかどうかについて聞かれ、防災委員や民生委員さんとで迎えに行く取組をされています。

今年度東城自治振興区の防災マップ作りの取組に呼応して、防災マップの見直しに取組まれ、危険個所の確認をされています。具体的には、防犯灯の支柱が朽ちているのを見つけれ市役所に連絡し、すぐに直す回答をもらったこと。洪水で、橋が水をかぶる危険箇所がありその対策について取り組んでいること等を話されました。最後に、各自治会の防災マップ作りの取組でわからないことや不安なことがあればいつでも聞いてほしいと話されていました。引き続き東城自治振興区で取組の交流ができればと考えております。

今回もたくさんの方にご参加いただき、熱心に研修していただきました。安心安全に住むことができる地域にするため、川西下自治会の取組を参考にしながら進めていただければと思います。㊗



## タイズ・フェス in とうじょう



11月20日に髭男爵をゲストに迎え、タイズ・フェスinとうじょうを開催しました。

190名の観客に会場いただきました。コロナ禍での久しぶりのイベントは大盛況で「来てよかった」「楽しかった」と皆さん喜んでおられました。



行事名	とき	12月からの行事内容
ふるさと今昔講座 (講座は会員以外でも受講できます)	12月11日(土) 13:30~	・講座 ZOOM 「史跡上黒岩岩陰遺跡の保存と活用」 講師 遠部 慎 久万高原町教育委員会
	12月14日(火) 13:30~	・座学 講演(郷土の歴史と文化) 「中国地方の鳥」 講師 漆谷 光名
ウーマンカレッジ	12月13日(月) 10:00~	・全体行事「クリスマス会」 東城自治振興センター 研修室 参加費 1,000円
しごんぼ隊	12月11日(土) 14:00~	・「クリスマス会」 東城自治振興センター集合 参加費 300円(しごんぼ隊は150円)



# 感染症対策

へのご協力をお願いします

： 新型コロナウイルスを含む感染症対策の  
 基本は、「手洗い」や「マスクの着用を含む  
 咳エチケット」です。

## ①手洗い

## 正しい手の洗い方

手洗いの前に ・爪は短く切っておきましょう ・時計や指輪を外しておきましょう

- 流水でよく手をぬらした後、石けんをつけ、手のひらをよくこすります。
- 手の甲をのぼすようにこすります。
- 指先・爪の間を念入りにこすります。
- 指の間を洗います。
- 親指と手のひらをねじり洗います。
- 手首も忘れずに洗います。

石けんで洗い終わったら、十分に水で流し、清潔なタオルやペーパータオルでよく拭き取って乾かします。

## ②咳エチケット

## 3つの咳エチケット

電車や職場、学校など人が集まるところでやるう



マスクを着用する (口・鼻を覆う) ティッシュ・ハンカチで口・鼻を覆う 袖で口・鼻を覆う



何もせずに咳やくしゃみをする

## 正しいマスクの着用



1 鼻と口の両方を確実に覆う 2 ゴムひもを耳にかける 3 隙間がないよう鼻まで覆う



咳やくしゃみを手でおさえる



■ 詳しい情報はこちら

厚労省

検索

